

オアシス通信



「これで人生大丈夫だ」

田中由美子師メッセージ

二月二十一日(日)に田中由美子師をお迎えして特別礼拝が持たれました。

田中師は第2コリント4章6〜8節から「土の器と神の力」というテーマで語ってくださいました。ひびが入ったり割れたりする土の器は私たち人間を象徴しています。人は神の戒めを破つたため、罪が入り神から離れ、迷える者となつてしまいました。神はこのさまよえる人間を哀れんで深く愛してくださり、救い主イエスキリストを送ってくださいました。

田中師は救いの証しの中で、「心の目をイエスキリストの十字架に向けた時、心が軽く



なつて、これで人生大丈夫だと思えた」と話されました。キリストを信じる信仰によつて、外は弱い土の器であつても、キリストの命という宝の中に得ることが出来ます。ですから、窮地に追い詰められた時にこそ、神の力が働くのです。私たちの外なるものは衰えても、内なるものは日々新たにされていきます。

目に見える表面的なものに心を奪われるのではなく、神との関係を正しく保つて、天国への道を前進していきましょう。(加藤順子)

ギデオン協会の働きを支えよう

岐阜純福音教会に二月十四日、ギデオン岐阜支部の竹内伸秀兄が来られ、証しとアピールをされました。竹内兄は一昨年、広島で開かれたギデオン全国大会の中で、証しされた婦人のことを話されました。ご主人が定年

になり、「さあギデオンの活動を始めよう」としたときに、がんが見つかり入院しました。そんな中でも、ギデオンの奉仕を積極的に行い、看護士さん、見舞いの方々などあらゆる人に聖書を配りました。天国に召される前に、そのご主



人は「人生いろいろあったが、この入院の時が最も充実していたよ」と語られたそうです。配布聖書は現在までに八十四の言語に翻訳されています。そして世界百九十一カ国で、ギデオンマンにより配布されています。ギデオンの配布聖書購入の費用は、個人または、教会からの献金でまかなわれています。その他の経費は一切自費によるものです。ギデオンマンの活動が力強くなされ、聖書を手にした人々が救われ、実を結ぶよう、祈つていきましょう。(加藤 哲)

河村亜希姉が転入

2月14日の礼拝で、河村亜希姉が岐阜純福音教会に転入されました。神の家族の新しいメンバーに加えられました。河村姉は次のような証しを寄せてくれました。

クリスチャンホームで生まれ育ちましたが、小学校高学年のときから、教会から離れるようになりました。大学卒業後、就職しましたが、チャイルドライフという学びをするために退職し、アメリカのサンフランシスコの近くにある学校で学びのときを持ちました。そこで学んでいたときに、個人的にイエス様に出会いました。帰国後、北海道にあるCFNJ(クライスト・フォー・ネーションズ・ジャパン)という神学校で学びのときが与えられました。昨年、地元に戻った中で、岐阜純福音教会という教会が与えられ、感謝しています。よろしくお願ひします。



